

女川町 支援活動レポート

2012.7.21 ~ 2012.7.22



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年8月5日(日)
東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、

被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

被災から、1年4カ月。我々の訪れる女川町は、少しずつ変化をしています。しかし、未だ、有事である事には変わりありません。

そんな女川町に、何が出来るのか。どう寄り添い続ける事が、出来るのか。一歩ずつ、歩を進めております。

出来る事ならば、女川町にある、全ての仮設住宅、在宅の皆様の方に、お顔出ししたい。けれど、それは、叶いません。

我々は、少しずつ人数を増やしているものの、行政でもなく、専門家のグループでもなく、仕事をしながら、寄り添う一般人の集まりです。

お役に立てるかは、分からないけれど、微々たる事でも、目的をしっかりと持ち、出来る事をしっかりとやる支援を心がけております。

今回は、先月開催いたしました、「第2回 東日本大震災チャリティーコンサート がんばっぺ東北！」に、ご協力頂いた仮設住宅を中心に訪れました。仮設住宅それぞれの特性や、雰囲気があります。同じ、女川町と言えども、一様ではなく、多くの色があります。

皆様の暖かいご支援、ご協力のもと、行かせて頂き、活動をして参りました我々が、感じて来た今の女川町を、ご報告させていただきます。まだまだ、有事にある女川町は、今後も継続的な関わりを必要としている事を、ご理解頂けますと幸いです。

2. 現在の女川町について

7月は、音楽イベント「我歴STOCK奮闘篇2012」が開催されたり、女川町のサッカーチームであるコバルトレ女川の試合があったりと、明るい話題を耳にします。豊富な海の幸もハイシーズンを迎えています。

新しく9月に完成する予定の大型冷凍・冷蔵施設の話もお聞きします。

女川町の中心部には、クレーン車を多く見かける様になり、海には、イカ釣り漁船が休んでいます。

一方、風評被害の話をよく耳にします。銀鮭、蒲鉾等の物産が、対象となっています。

漁に出ても、売れない、安く買いたたかれる。それでも、海の世界をする為に船を出す。オイル代は赤字です。

先の見えない不安が、女川町の明るい空の下にあります。



停泊する漁船が増えました



見かける重機の数が増えました

3. 活動報告

今回現地入りしたのは、19名です。18名は東京から、1名は仙台から参加しました。

車6台(内2台はレンタカー)に分乗し、女川町を訪問しました。

訪問先は、宮城県牡鹿郡女川町の「針浜地区仮設住宅 40世帯 100名」、「旧第三小学校仮設住宅 25世帯 60名」、宮城県石巻市の「石浜地区在宅避難者 12世帯 15名」です。

バーベキュー大会、ミニ花火大会、スイカ割り、マッサージワークショップを行いました。

バーベキューコンロ、肉類は東京から持って行きました。女川町にて、魚介類、野菜類、スイカ等調達し、購入支援を心がけました。引き続き、「一緒に作る」、「一緒に食べる」事による、コミュニケーションに力を入れ、支援する側、される側では無く、人間同士のお付き合いをさせて頂ける様、心がけました。

少しでも楽しく、ワクワクと外出する機会を作らせて頂きたい、と考え活動いたしました。

以下、活動内容について報告いたします。

(1) 準備期間

準備期間：2012/5月上旬～2012/7/20

(2) 支援活動内容

A. バーベキューパーティー

- ・バーベキュー 150食分
- ・ビールサーバー 2個 (旧第三小学校地区、針浜地区に各々1個)
- ・缶ビール 24本 (石浜地区)
- ・日本酒、焼酎 1～2本/各地域

B. スイカ割り (各地区)

C. ミニ花火大会 (旧第三小学校地区、針浜地区)

D. マッサージワークショップ (針浜地区)

(3) 活動レポート

活動日は、かなり前から決定していた。しかし、活動内容は、決まっていなかった。フェーズに合った活動をする為には、必要な事であった。今回は、前回に引き続きタ方の活動とした。タ方ならば、参加出来るお父さん方に出てきて頂きたい為であった。もちろん、冬もタ方の活動を行いたい、日没が早く、寒さがきつくなる時期、我々東京の人間には、事故を伴う可能性が否めない。

2012年7月8日(日)

ミーティング。いつもの事ながら、時間があっという間に過ぎる。タ方の活動は2回目。バーベキューも2回目。もっと、時間をかけず、もっと、女川町の方々が楽しく、もっともっと。遅くまで話し合った。

2012年7月20日(金) 18時

荷物、仕分け、車への積み込み。今回は、大がかりな後方支援の方々による活動を行わなかった。その分、各自が責任を持って、準備する必要がある。BBQクラブさんのご協力により、大きなコンロが5つも届いた。とても、一人では、持ちあげられない。株式会社モランボンさんから、焼き肉のタレが届く。皆、ご好意によるものだ。明日の活動に向け、気持ちが入る。



このお肉は、この地域…

2012年7月21日(土) 6時

集合。出発。人数が多い。新たな参加者も多い。慣れてきたメンバーも居る。そろそろ事故が起きてもおかしくない。朝から、緊張と、軽い興奮がない交ぜとなる。今日の計画を何度も、反芻する。さあ、女川へ。首都高速が軽い混雑を見せた以外は、車は順調に走った。13時。予定より30分遅れにて、夏空の女川町へ到着。見慣れた景色に心がほどける。女川町の美味しい食事を各々堪能した後、復興支援センターにて最終ミーティング。気合を入れて、それぞれの地域へ。



皆で、気合を入れます!

以下、活動内容は、各グループリーダーの報告によります。

◆担当地域：針浜地区 40戸 100名 (バーベキューパーティー、スイカわり大会、ミニ花火大会、マッサージワークショップ)

リーダー… 安部

メンバー… 渡邊、石川(篤)、藤原、末石、片桐

マッサージ…川端、石川(稚)、計8名

予定の時間を少し過ぎて到着すると、すでに外に出て待っていてくださる方がいました。楽しみにしてくださっていて、とても嬉しい思いでした。

花火をしやすいようにと、駐車場のスペースもあけてくださっていました。
 地区長さんがお仕事でご不在でしたが、
 社会福祉協議会の須田さんがいろいろと手配をしてくださり、
 とてもスムーズに準備をすることができました。まずはテントの設置を始めました。
 風があって吹き飛ばされそうで困っていたところ、住民の方々があちらこちらから
 洗濯竿を固定するコンクリートの台を運んでくださいました。
 またテーブルやベンチもあつという間に設置をしてくださり、会場準備が整いました。
 会場準備と並行して、石川(篤)と渡辺の二人で一軒、一軒お声かけにお邪魔しました。
 事前に掲示していただいていたポスターですすでにご存知の方も多く、
 ここでも楽しみにしてくださっていたことが伝わりました。



こうやってマッサージしあうと…

同時に準備ができたマッサージのワークショップにもすぐ人が集まり盛況となりました。
 お待ちいただく間に「がんばっぺ東北」コンサートで女川マザーズの作品を受け取ってくださった方たちからのメッセージを見ていただき、
 大変喜んでいただくことができました。



気持ちの詰まったメッセージ集

外では「すいか割り」からスタート♪ まずは子ども達がプラスチックのバットを手に挑戦！
 目隠しをしてぐるぐるまわり、よろよろ…と。エイっ！と勢いよく叩いてもなかなか割れません。
 見ている方たちからも楽しそうな歓声があがります。
 子ども達が一通り挑戦しても割れず、最後は大人の方のパワーでどうにかスイカに
 ひびが入りました。冷やしておいた他のスイカも切ってみなでいただきました。
 「今年初めて」という方が多く、あま～いスイカをおいしくいただきました。
 そろそろ炭にもよい感じに火が入り、いよいよバーベキュースタートです。
 それぞれトングを片手に焼いていただきました。

おかせいさんで仕入れたイカとホタテ。生の大量のイカをお母さま方が全部きれいにさばいてくださりました。
 焼き始めるとこのイカとホタテ、お肉のおいしいような香りが辺り一面にあつという間に拡がり、
 香りに誘われたくさんの方が外に出てきてくださいました。茶色い蒸し麺が特徴の石巻焼きそばにも挑戦。
 初めはメンバーが焼いていたのですが、住民の方にもお願いしてどんどん焼いていきました。
 皆さんとてもお上手で、とてもおいしい焼きそばができました。おいしいイカ、ホタテ、野菜やお肉もどんどん焼かれていきました。
 バーベキューは女川の方たちの方がやり慣れていて教えていただくことがたくさんあり、とても楽しくできました。

子ども達を中心に花火大会スタート♪ろうそくを用意するのを忘れてしまうというハプニングもありましたが、
 住民の方に貸していただき無事花火に火をつけることができました。
 きゃっきゃつとはしゃぐ子どもたちは本当に楽しそうな笑顔を見せてくれました。
 それを見ている住民の方や私たちメンバーも嬉しくなり自然と笑顔になります。用意した花火はすべて使い、楽しむことができました。
 生ビールもつぎ方をお互いに伝授しながら、「泡が多いのがいい。」「なくていい。」とそれぞれの方のこだわりでついでいただきました。
 自然とお話も盛り上がり、あちらこちらで多くの笑顔と楽しそうな話声でいっぱいになりました。
 「外で食べるとおいしいね」「みんなで食べるのはいいね」という声がたくさん聞けて嬉しかったです。
 同時に「久しぶりだね…」という声もたくさん耳にし、女川町へ伺い続けることの意味も感じました。

そろそろ暗くなりはじめ、撤収開始。洗い物もお母さま方がほとんどしてくださりました。
 バーベキューの炭やコンロの片付けに手間取りましたが、手伝っていただきながらいろいろ教えていただきとても助かりました。
 辺りはすっかり暗くなり肌寒くなってしまいましたが、最後までお見送りしてくださり、大変ありがたかったです。また伺います。



ちゃんと割れるかな



石巻焼きそばの作り方を習いました



とても楽しみにしてくれていた花火大会

◆担当地域：石浜地区在宅 12世帯 15名 (バーベキューパーティー、)

リーダー…三上

メンバー…瓜田、小林、小澤

計4名

石浜地区は、在宅地域で、東北被災地応援団白金支部として、これまで何度かお邪魔させていただいており、いつも、快く

迎えていただいております。今回も、また来たよ！ただいま！そんな気持ちで、お伺いさせていただきました。

到着してすぐに、地区長さんにご挨拶をさせていただきました。次々に近隣から、お家から皆さんで来てくださり、歓迎していただいている様子が伝わってきて、私共も、とてもうれしい気持ちになりました。今回は、バーベキューをさせていただきたいとご説明、設営の場所のご指示をいただきます。

石浜地区は、海岸から、なだらかに山間に上る一帯の地域です。震災の際は、海岸線から近いところは、漁業関係の工場や住宅があったそうですが、ある程度高さにあった住宅を除いて、津波にのまれてしまったそうです。

震災から一年以上たったいま、津波でかろうじて残った家の土台を利用して、家を再建し、この地区を戻ってしようと、思っている方々もいらっしゃるそうです。

前回お邪魔したときに比べると、半壊の家も片付けられており、今のこっている家だけ以前から存在し、そこから直接見える海岸が、印象的な地域のように見えますが、震災前は、今、何も無いところに家があり、水産加工の会社が立ち並ぶ光景だったそうです。

バーベキュー用のコンロを設置、日よけ用のタープを張っていると、お手伝いに顔を出してくださる方がいらして、準備もスムーズに進みます。火おこし始まるころには、たくさんの方々が集まってくださり、皆さんと、楽しいお話をさせていただきながら、バーベキューの始まりです。

バーベキューの仕切りが得意だとおっしゃるお父さんに、網奉行をお任せし、私達は、地元の方々とのお話が進みます。

家は残ったけれども、家の中と、外との、光景のギャップ、毎朝見る光景であっても、それは衝撃的で、決して、見慣れる光景ではないこと、帰らない家族の面影を、変わることなく住む場所で感じ、決して震災前の取り戻せない生活を、呆然としながらも、受け入れていくしかない毎日、いろいろなお話をお伺いさせていただきました。

そんな中でも、お子さん、お孫さんの世代が、この地域にもどりつつあるようで、そのことを、大変喜んでいらっしゃる方が、印象的でした。

我々のために、家にあったお魚なども振舞っていただき、本当にうれしかぎりでした。在宅であるがゆえに、行政からの支援も、遅れがち、お住まいの方々も、せめて家が残ったのだから…と、がまんされていらっしゃるが多いように思います。しかし、震災から日常を奪われ、受け入れがたい非日常が、日常になっていってしまう現実の苦しみは、仮設にお住まいの方々も、在宅地域の方々も変わりはない様に思います。

そんな中で、我々のような団体が、外から入ることで、非日常が日常になってしまった、受け入れがたい現実の生活に、少しでも、彩りをもたらすことができていたらなあ、と、思いながら、交流をさせていただきました。

最後に用意した石巻焼きそばは、お母さん達のお話では、最近では、あまり口にされる機会もないとのこと、大変喜んでいただいたようです。若い世代が少ないこちらの地域では、スイカ割り、おこないませんでしたが、スイカを切って、皆さんに楽しんでいただきました。

ゆったりした時間を過ごさせていただき、あっという間に、お片づけの時間、皆さんにお手伝いいただき、片付けもあっという間に終わります。迎えの車より、早く片付けも終わったため、残ってくださった方々と、百人一首の絵札を使った、簡単なゲームを、用意した明かりの下で皆さんと楽しみました。当日に生憎の天候で、気温も低いなか、皆さん、最後まで付き合ってください、本当にうれしかぎりです。

最後まで残っていただいた皆さんとも、ご挨拶、我々の団体として、またお邪魔したい旨を伝えて、お暇してまいりました。またきてね、そんなお言葉を頂いての、後ろ髪をひかれる思いの撤収でした。

石浜地区の皆様、本当にお世話になり、ありがとうございました。石浜地区にも、ようやく集会所ができます。

集会所ができたたら、皆さん集まって、カラオケや、ご婦人の手芸会などで、交流を図っていきたいとお話でした。

少しの日常の変化でも、それが、気持ちの彩りになることであれば、とても歓迎されていること、肌で感じることができました。



モランボンさんのタレは大好評



紫陽花が咲く中バーベキュー



坊主めくりはやってみると面白いのです。

◆担当地域：旧第三小学校地区 25世帯 60名 (バーベキュー大会、スイカ割り、ミニ花火大会、スティールパン演奏)

リーダー…仙頭

メンバー・・・石川美、近藤、平林、古山、三浦 計6名

旧第三小学校仮設住宅は、我々が、ほぼ訪れた事の無い仮設住宅であった。

曇り空の下、初めて訪れる地域に、メンバー皆が緊張していた。心配していた気温も調度良い。過ごしやすい1日となりそうだ。

到着後、荷物を降ろしつつ、地区長の小松さんにご挨拶する。すぐに出てきて下さる。

ちらほらとお会いする地区の方々も、待っていたのよ、と話かけて下さる。

和やかな雰囲気、メンバーの顔がほころび、ご挨拶の声が大きくなる。

地区長の小松さんと、すぐに出てきて下さったお母さん方と話しながら、バーベキューの流れを決めてゆく。

地元の美味しい鮮魚屋である、おかせいさんで購入したイカの箱を開けた時、一瞬声を無くした。

採りたての、艶めく生イカが、60杯。美しく整列している。

美味しそう。でも、どうやってさばくと時間がかかりらないうか。

ぼんやりすると、肩ごしに覗いたお母さん方が、`さばこうね~`と軽くおっしゃる。

あっと言う間に準備が進む。メンバーがイカのさばき方を教えて頂く。

1時間もかからずイカの砂糖醤油付けが出来た。

すでに、バーベキューの主導権が、お母さん達に移行していた。

16時。お母さん方と、スイカを切り、一度ゆっくりと、座って頂く。

すかさず、平林がスティールパンの演奏を始める。緊張する演奏家。優しく見守るお母さん。

我々らしい、なかなか素敵なスタートだ。

旧第三小学校仮設住宅には、先日開催した、がんばっぺ東北！に、今までの、全国からの、支援への感謝の気持ちとして可愛いカードを作製して下さったお母さん方がいらっしゃった。イベント当日、カードを受け取られた来場者の方々から頂いたコメントをお見せした。

高らかな笑い声。指さし、目が輝き、声が大きくなる。ひとしきり、嬉しそうな横顔をながめた。

古山、近藤が、お声かけに一戸ずつ戸を叩く。その間に、石川美、三浦がコンロで火をおこす。

準備が出来た頃、まずは、女性陣が集まっている。

お母さん達が、手慣れた風にトングを持つ。イカも、肉も、野菜もドンドン焼かれていく。

次に、男性陣が集まり、黙って腰かける。お母さん方は、ますます甲斐甲斐しく世話を焼く。

我々メンバーも気遣われてしまう。あなた、座って。食べて。当然の様に。

いやいや、そうもしてられません。立って、皆様とお話させて頂く。

震災の話。買い物の話。風評被害の話。仕事の話。子供の話。家族の話。たまに涙もある。

大きな家族の様なコミュニティー。元々、隣接する3つの集落からなる仮設住宅。

しかし、大きな気遣いの中、肩を寄せ合って生活している事が手にとれる。

それでも、浜の女性は強く優しい。皆に笑顔で接している。

誰かの孫が居る。皆が、親族の様で、誰が本当の家族か分からない程だ。

若い家族も揃い、気付けば、45名程が集まっていた。和やかな風が吹いていた。

空高く、夏鶯の音が響く。

恥ずかしそうに、こういう会は初めて来た、と話す方々も多かった。

あるお父さんが、お酒が入り、饒舌になっていた。

炊き出しをされる身になるなんて。苦々しく吐き出した。

そこで、イベントの意義をお話させて頂いた。ご飯を配りに来てる訳ではない。

我々は、寄り添いたいのだ。

少しでも、楽しいイベントで、出てきて頂こうとすると、食事になっているだけだ。

黙って食べ始めたお父さん。照れた小さな笑顔で、小さく、ありがとう。と言われた。

最後に、花火をした。

線香花火の向こうに、温かな空気が流れる。柔らかな歌声。優しい眼差し。

優しく女川弁で話してくれるおばあちゃん達。分からない我々をからかう。

また来てね。帰路につく我々を、暗闇の中、手を振ってくれる。見えなくなるまで。

22時

夕飯。後、反省会。多くの有意義な経験が語られた。今後の課題についても話された。

2012年7月22日(日)

9時 出発



地区長の小松さんに見守られ、緊張!!



コメントを集めたファイルを楽しそうに



歌声と共に、花火



赤い袋が鈴なりです。

9時半

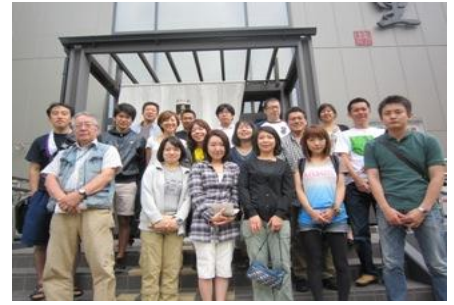
高政さんにてお土産購入。

マリンパルさんにてお土産購入。

支援の一環とはいえ、美味しい物ばかりである。楽しい。

16時半

白金着。片づけ。



最後に集合写真をパチリ

以上、簡単ではありますが、活動レポートとさせていただきます。

草の根的な活動ではありますが、少しでも早く、東北地方が復興出来るよう、微力ながら続けていこうと考えております。

今回の活動に、物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に、感謝いたします。

それとともに、引き続きご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

4. 活動成果

(1) 経験、実績を残したこと

- ・初めてリーダーを務める者が、時間配分等を上手に出来た。
- ・メンバー、一人一人が、女川の方々と距離を縮めた。
- ・「一緒に作る」支援は、やはりヒトの間の垣根を取り払うのに、有効な方法であった。
- ・小さなグループでの活動を行う事で、女川の方達に威圧感無く、自然にお話に乗せて頂く事が出来た。
- ・戸を叩かせて頂く事により、普段外に出ていらっやらない方々を、外出に促す事が少し出来た。
- ・手持ち花火は、人の心の垣根を取り去るのに、有効なイベントであった。

(2) 現地の状況を知れたこと

- ・イベント性の強い、興味引く活動であれば、引き籠る方々が、出て来やすい可能性がある事が分かった。
- ・未だ、女川の方々の多くは、被災された時のお話を繰り返される。まだ、聞くフェーズである事を実感した。
- ・浜に近い仮設住宅は、既存のコミュニティーが、そのままに残っている事が分かった。
- ・浜に近いコミュニティーにも、問題は散見される事が分かった。
- ・仮設住宅を含めた生活や、仕事に関する問題が、多く存在する事が分かった。

(3) ネットワークが持ったこと

- ・女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを持った点
- ・新たな仮設住宅を訪れた事により、初めての出会いがあった。

5. 今後の予定

(1) 女川町8月支援活動の予定・・・REALeYEさんより参加協力の要請

8月13日。女川 常夜灯「迎え火」。REALeYEさん主催、対話工房さん、女川町観光協会さん、華夕美さん協力。御先祖様、そして震災により旅立ってしまった家族・友人・恋人・・・大切な人を迎える為、「迎え火」を焚きます。こちらのプロジェクトに微力ながら参加協力させていただきます。

(2) 女川町9月支援活動の予定

9月22日～23日、清水地区仮設住宅(清水地区仮設住宅 114世帯 364人)に伺います。女川町のお母さん達から教わる、本場つみれ汁講座、つみれ汁お食事会、三味線コンサート等を予定しております。何か、心沸き立つ、楽しい事が出来ないか、少しでも、皆様に出て来て頂ける事を目指し、頭を捻っております。

6. 補足事項

(1) 参加者(敬称略/順不同)

川端 陽子	石川 重美	末石 義史	瓜田 創
安部 由美	藤原 朗	小林 歩	片桐 稔

石川 稚子	渡邊 淳子	平林 真百合	近藤 尚之
古山 美有樹	三浦 圭介	小澤 徹	三上 加寿子
石川 篤史	仙頭 淳子	工藤 史大	

(2) 後方支援者 (敬称略/順不同)

尚礼会町会	橋本 翔二	小澤 雅志	小澤 静子
-------	-------	-------	-------

(3) 食材等支援提供 (敬称略/順不同)

株式会社 モランボン	BBQクラブ	(株)山善食品
------------	--------	---------

近越 浩蔵

(4) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

Japanese Womens League of Sonoma County

Rapha 鍼・灸・マッサージ 患者募金 ホルモン焼き夏冬

橋本 翔二	石井 千恵子	三浦 富美雄	鈴木 康文
鈴木 美世子	工藤衣世	川端 陽子	石川 重美
安部 由美	藤原 朗	末石 義史	瓜田 創
石川 稚子	渡邊 淳子	小林 歩	片桐 稔
古山 美有樹	三浦 圭介	平林 真百合	近藤 尚之
小澤 徹	三上 加寿子	石川 篤史	仙頭 淳子
工藤 史大			

Nail salon Cloche

目黒BAR GONE

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害復興支援センター (旧: 災害ボランティアセンター) 様

(6) 現地協力団体

REALeYE (高橋 圭介 様、高橋 一枝 様)

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうへで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

平成24年8月5日
東北被災地応援団 白金支部
工藤 史大



★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2011 Tohokuhisaiichi-Ouendan All Rights Reserved.